

2023年度チャレンジ講座(第7回)を実施しました

9月20日(水曜日)、第7回(文系第4回)チャレンジ講座を実施しました。今回もオンラインでの受講に加え、会場である経済学部203教室で21名の高校生が受講しました。

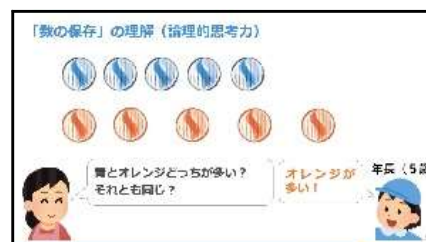


今回の授業では、教育学部の向井隆久先生に「心理学で覗いてみよう！不思議な世界=子どもの世界」というタイトルで講義をしていただきました。

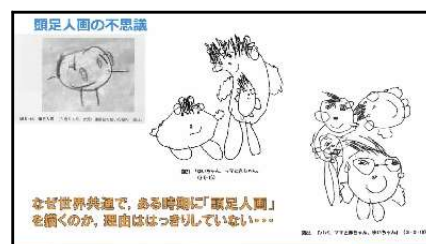
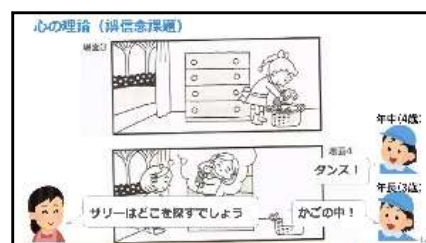


まず始めに、子どもはなぜ、「いない いない ばあ」に喜ぶのかという問いかけ。早速、先生から「考えてみるのが大切」という言葉をいただきました。これは、子どもの発達と関係があり、隠されたものがずっとそこにあることの理解が難しい、すなわち「物の永続性」の理解と関係していることを教えていただきました。

次に、「数の保存」の理解について。5歳頃の子どもの、それぞれ5つのおはじきを上下に並べて提示した際の子どもの反応は「数は同じ」。しかし、上下に並べたおはじきの下の5つの間隔をあけて見た目を長くすると、「こっちの方が多い」と答えるとのこと。このことから、子どもの世界は大人とは異なるのだということがわかります。このような内容は教え込むことができないもので、遊びを通して子どもが自ら創り上げていくものだということでした。



続いて「心の理論」(サリーとアン)や、3歳・4歳の世界中の子どもが共通して描く「頭足人画」など、子どもの発達を理解しながら、子どもの不思議な世界を覗かせていただきました。最後に「問うことのすすめ」として、大学で学ぶために必要な要素を示唆していただきました。



オンラインでは、23校619名の高校生が受講しました。事後のアンケートでは、「心理学、発達心理に興味があったので参加しました。これからの進路選択に繋がる探究活動などでの問いを考える際にとても役立ちそうです。興味がまた湧いたので他にも調べてみようと思いました」、「私たちにとって当たり前で、考えてみるようなことでもないことが、子供にとっては当たり前じゃなかったり、不思議だったりするということに改めて気づくことができました。子供の思考や行動の心理的な部分を知ることができたので良かったです。最後に仰っていた、「いろんなことを問うてみる“というのをこれからは考えて、周りをよく見れ、問いをもって考えられるような人になりたいと思います」などの感想が寄せられました。